

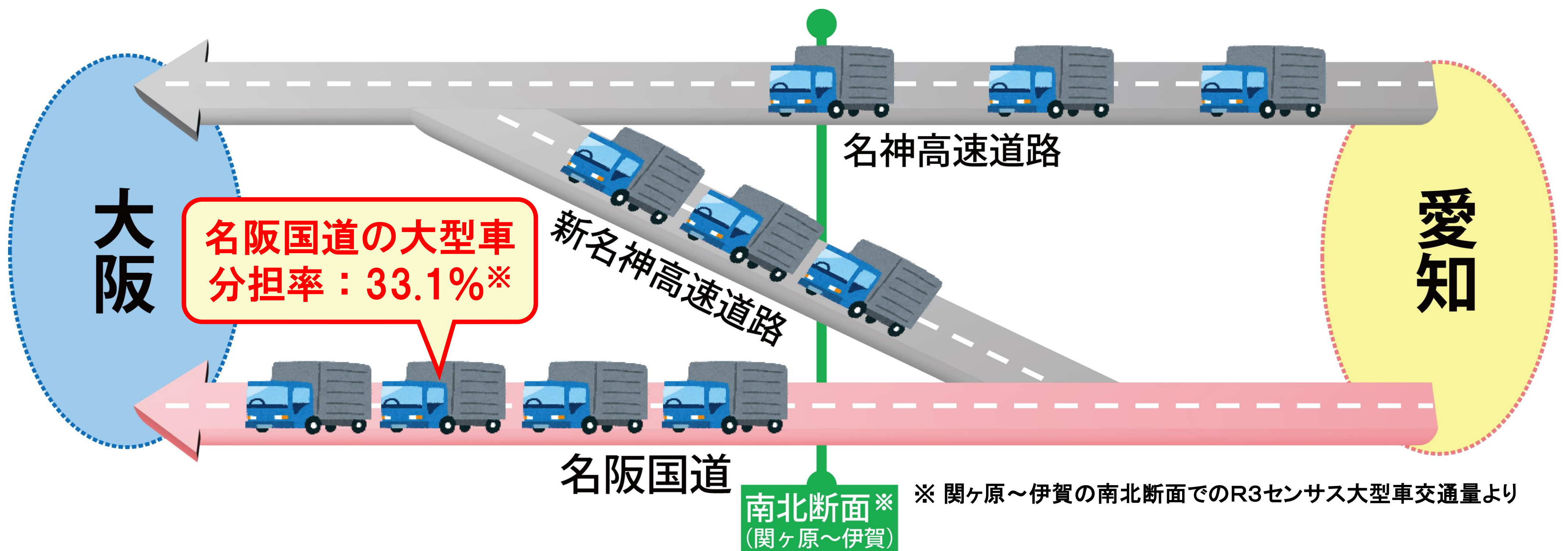
広域的な効果

ストック効果

広域的な 貨物流動を支援

南北断面※における物流交通の約3割が名阪国道を利用

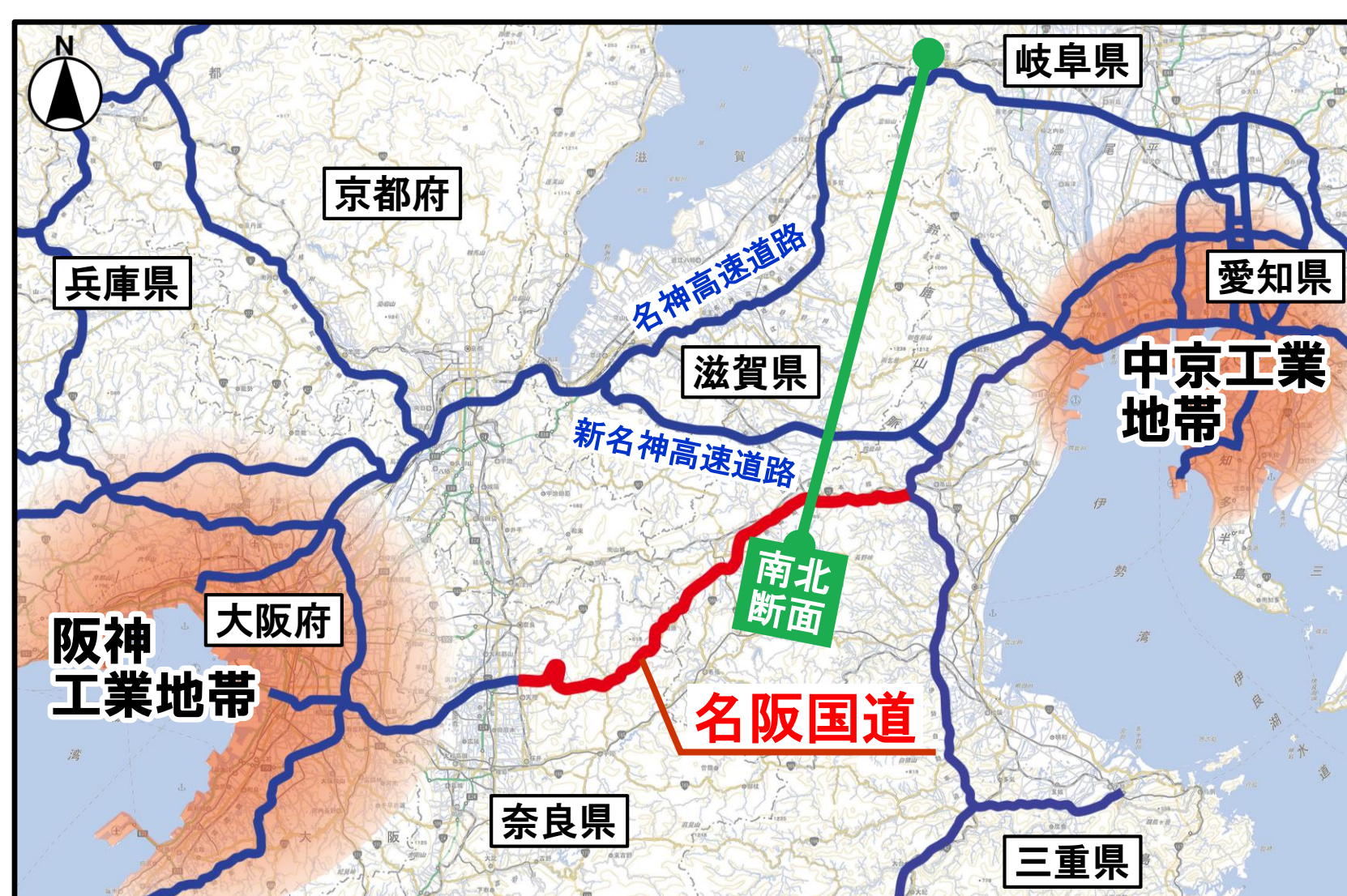
■ 輸送において名阪国道が果たす役割



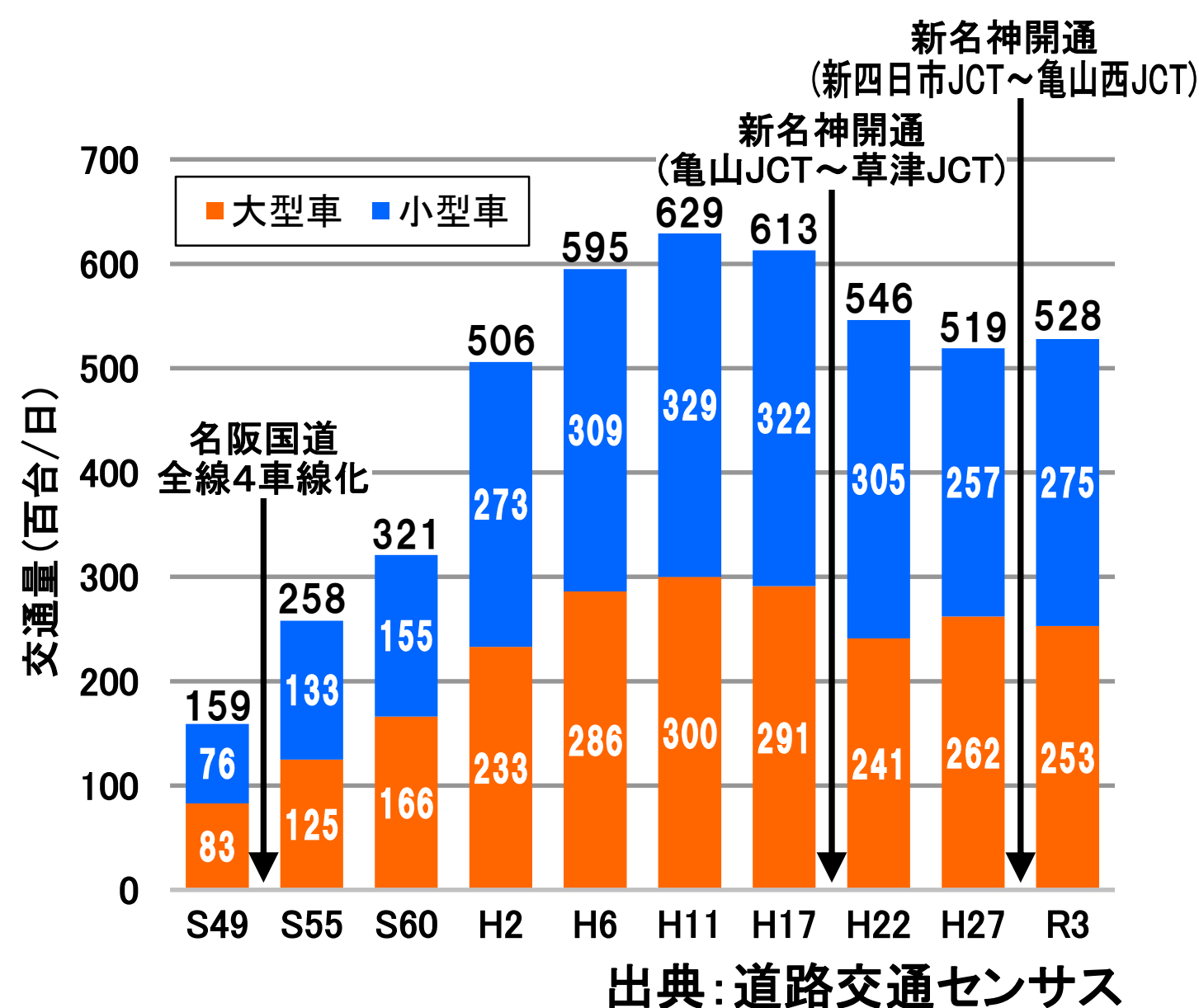
1日約5万2千台、うち大型車2万5千台の交通を休まず処理

■ 開通直後から「大動脈」として機能し続ける名阪国道

【阪神・中京を最短経路で結ぶ名阪国道】



【名阪国道の交通量変化】



【交通状況の変化】



- ・昭和40年、約1,000日で完成させた名阪国道は、中京・阪神の両工業地帯の最短経路である利便性の高さから、開通直後から交通量が急速に増加
- ・これに対応するため、昭和52年には全線4車線化、また大型車の交通増加に対応するため登坂車線を5箇所を整備するなど、道路の機能アップも図り、開通から60年を経過した現在でも、1日約5万2千台、うち大型車2万5千台の交通を休まずに処理しており、日本経済を支える大動脈として機能